

遺跡が伝える安城の歴史

平成27年度の調査から

本市には、250カ所を超える遺跡があります。埋蔵文化財センターでは、平成27年度に発掘調査11件、試掘・確認調査24件を実施しました。その中から、3つを紹介します。

別郷廃寺跡（別郷町）

今回は平成26年度から続く個人住宅建設に伴う調査です。

別郷廃寺跡は平成25年度の調査で、大量の瓦と愛知県最大の鴟尾の破片が発見された古代の寺院跡です。

いまだ謎につつまれている別郷廃寺や戦国時代の土地利用状況が新たに分かりました。

◆謎の土塁の正体は？

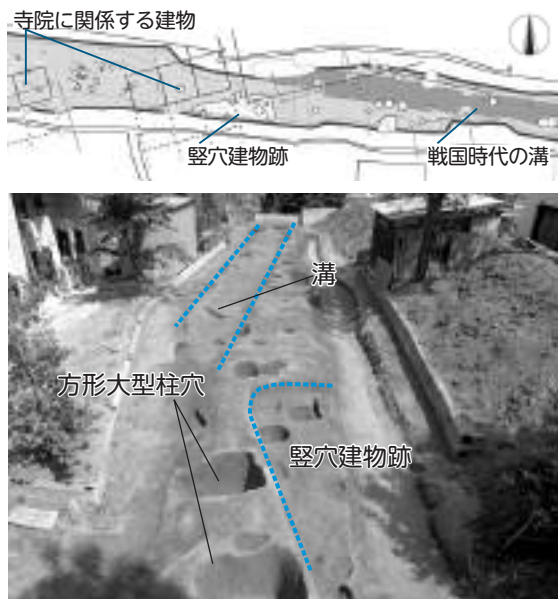
調査前、竹藪の下に残る土塁状の高まりは、奈良時代の寺院に関連する土塁とも考えていました。しかし発掘により、高まりの下に東西に延びる溝の存在が確認できました。



調査地測量図

土塁状の高まり▼
(東側から撮影)

調査地(西側から撮影)



この溝からは戦国時代頃までの土器や古代の瓦片が多く出土しています。溝が戦国時代までに掘られていたとすると、土塁状の高まりはそれよりも後に造られたものになります。

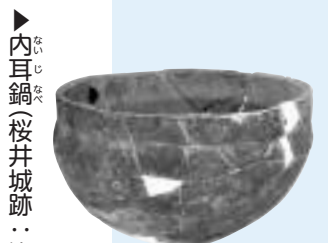
高まりの上部には瓦片や陶器、石製五輪塔の一部が入る土坑が検出されました。中からは、奈良

時代の瓦片の他、中近世陶器が大量に出土しました。このことから、土塁状の高まりは戦国時代以降に築造されたものと考えられます。

現在の別郷町と西別所町の字境にあるため、町と町を区分するため造られた土塁状のラインといったところでしょうか。

◆大型柱穴を発見!!

一辺が80cm近くもある方形大型柱穴が9基、その他にも多くの柱穴を検出しました。少なくとも6棟の掘立柱建物があったとみられます。その他、縦穴建物跡を1棟検出しました。柱穴は、掘立柱建



内耳鍋（桜井城跡…注2）

三河型甕（高畑遺跡…注1）



物の柱としては通常のものよりかなり大きいもので、別郷廃寺に関連する建物のもつとみられます。

◆今回の調査から

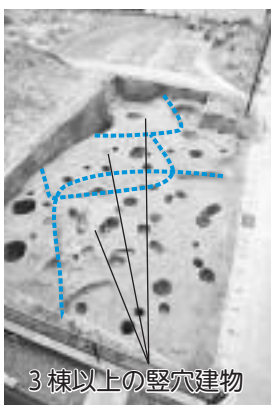
別郷廃寺の中心となる金堂や塔といった主体部分の建物は見つかりませんでした。しかし、柱を持つ建物が発見されました。また、廃寺後の戦国時代頃にも人びとが活発に土地利用をしていたことが分かり、別郷廃寺跡の歴史をひも解く上で重要な成果です。

高畑遺跡（高木町）

高畑遺跡は、碧海台地の東端部に広がる、古代・中世の集落跡を中心とする遺跡です。岡崎市側の低地から眺めると約8mの標高差を確認できます。現代と同様、日々の暮らしは標高の高い土地で、作物の生産は低地で行っていたと考えられます。

近年、個人住宅の建設増加により、発掘調査が多く行われ、複数の縦穴建物や柱穴が発見されました。これは今からおよそ1300年前の奈良時代から、この地に人びとが暮らしていたということを明らかにしています。

◆重なりあつた縦穴建物



3棟以上の縦穴建物

調査区の中には、3棟以上の縦穴建物が重なるように見つかっています。建物は、およそ3.5〜5m四方の大きさで、壁の周囲に浅い溝（壁溝）が巡っています。

◆煮炊きに使った甕

1棟の縦穴建物から、この地方独特の形をした、口が広く鰐がほ

◆遺跡の調査にご協力を

本市では、開発によってやむを得ず壊される遺跡を事前に発掘調査しています。住宅や工場、道路等の工事計画がある場合は、文化振興課に相談してください。

◆調査結果の展示

紹介した遺跡を含め、平成27年度の調査結果を埋蔵文化財センターで展示しています。また、展示品や調査内容を紹介するパンフレットも無料で配布しています。ぜひご覧ください。

◎展示日時

(火)～(日)午前9時～午後5時(年末年始を除く)

※月曜日が祝日の場合は開館。



戦国時代から近世、近代を中心とした井戸や土坑が多く、建物跡はわずかにしか確認できませんでした。この地帯は居住地域というよりも井戸を多く用いた生産活動の場であったと考えられます。また、奈良時代の溝が見つかり、古くから人びとの活動の場であったことも明らかとなりました。

◆今回の調査から

この土坑の用途は不明ですが、井戸と関連して使われていたと推測されます。また、桜井松平家がいたおよそ450年前の16世紀中頃から末までの鍋や炭、貝殻等が出土しています。



▲北区全景(西から撮影)

◆奈良時代の溝

桜井城が存続していた時期より古い溝が1条確認されました。南北に延び、溝の中から奈良時代の須恵器や土師器が出土しました。

◆桜井松平家に関わる戦国時代の遺構を発見!!

調査地は広大であったため、北区と南区に2分割して行いました。

◆桜井城跡（桜井町）

桜井城跡は、戦国時代に築かれた桜井松平家の城です。周囲を谷に囲まれた舌状の碧海台地面に広がり、現在では城山公園と桜井靖霊神社となっています。

今回の調査は、土地区画整理事業の区域内となる城跡の南西において、道路や住宅の新設予定地で行いました。桜井城跡での本格的な発掘調査は、今回が初めてとなります。

調査では、戦国時代の土器(写真・前ページ注2)を多く含む直径約2、3mの大型の井戸が7基も見つかっています。井戸の近くには丸い穴が3、4基連なった遺構が6カ所以上確認できました。